



DH SYSTEM
大日本塗料株式会社

商品番号 6422

CSサンド

1. 一般名 コンクリート接触面表面調整剤
2. 規格 社内規格
3. 特徴
- 1) 無機・有機ジンクリッチペイントや亜鉛めっきとの密着性に優れている。
 - 2) フレッシュコンクリートとの密着性に優れている。
 - 3) 粉体に水道水を添加する形態であり調合作業が容易である。
 - 4) 有機溶剤を含まない水系非危険物で安全性に優れる。

4. 性状

項 目		内 容					
容姿		1 粉末					
荷姿		15 kg					
色相		コンクリート色					
密度	粉体	1.51 (23℃)					
乾燥 時間	温度	5℃	10℃	20℃	30℃	40℃	
	指触	45 分	40 分	30 分	20 分	15 分	
	半硬化	120 分	110 分	100 分	95 分	90 分	
引火点		非該当					
発火点		非該当					
爆発限界		非該当					

上記性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

6. 施工上の注意

- (1) 施工面の粉化物、塩分、油脂、塵埃、水分その他の有害な付着物は完全に除去する。
- (2) 攪拌は動力攪拌機を用い、上水に対して徐々に粉末を混入し、塊が残らないよう十分攪拌する。攪拌時間の目安は、粉体を全て投入後から約2分間とする。
- (3) 攪拌機はステンレス製を用い、アルミニウム製は用いない。
- (4) 材料の混合後は可使時間以内に使用する。途中、上水の追加は禁止する。
- (5) 高湿度時（85RH%以上）は乾燥時間が遅延し、白化やダレ等の不具合を生じるため、施工中及び乾燥過程においては十分な換気を行う。
- (6) 使用量管理（空缶管理）を基本とし、wet 膜厚管理は参考値とする。
- (7) 参考に wet 膜厚管理を行う場合は、wet 膜厚 200 μ m 以上を目安とする。
- (8) 乾燥膜厚管理は、表面凹凸が激しいため不適であることから設定しない。
- (9) 厚膜時はクラックが生じる恐れがあるため注意する。
- (10) エアレス塗装機は指定のものを用いる。
- (11) 機器の洗浄は上水を用いる。一度硬化すると洗浄が困難なため、こまめに洗浄を行う。特にエルボー部やピストン部などは汚れが溜まりやすいため、丁寧に十分に洗浄を行う。
- (12) 施工に際しては「施工要領書」を併せて参照する。
- (13) 材料の保管は冷暗所で行い、床面から離れた状態でビニールシートなどで覆って保管する。
- (14) 有効期間は製造後6カ月間である。

5. 塗装基準

項 目		内 容				
下地処理		無機・有機ジンクリッチペイント面：清掃 亜鉛めっき面：スweepプラスト処理 (ISO Sa1)				
調合法 (粉末 100/上水※1)		5℃	10℃	20℃	30℃	40℃
		24～30				
可使時間（分）		5℃	10℃	20℃	30℃	40℃
		120	90	60	40	20
温度・湿度の制限		気温 5℃以上 40℃以下、湿度 85%RH 以下				
希釈・洗浄剤		上水				
塗 装 法	塗装方法	エアレス			刷毛・ローラー	
	標準使用量	0.85 kg/m ²			0.65 kg/m ²	
	標準膜厚	—				
	ウェット管理膜厚	—※2				
エアレス塗装条件 ※3		1 次圧： 0.2MPa（ 2 kg/cm ² ）以上				
		2 次圧： 6.4 MPa（64 kg/cm ² ）以上				
		チップNo. 5125、5140（SEIWA）				
		推奨粘度： 10～20dPa・S（リオン粘度計）				
塗装 間隔	温度	5℃	10℃	20℃	30℃	40℃
	最小	1 日				
	最大	6 ヶ月				

注) 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる

※1) 粉末 100 に対する上水の外割り添加量 (重量比)

※2) 200 μ m 以上 (参考値)

※3) エアレス機は WIWA 社 35032 を用いる

7. 関連法則

危険物表示	—
有機溶剤区分	—
有害物質表示	SDS 参照
劇物表示	—

8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDS をご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。